

論文番号 264

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名 (原題/訳)

Effects of CB1 cannabinoid receptor blockade on ethanol preference after chronic ethanol administration

慢性エタノール投与後のエタノール嗜好性に与える CB1 カンナビノイドレセプター阻害効果

執筆者

Lallemant, F., Soubrie, P. H., De Witte, P. H.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Alcohol Clin Exp Res, 25(9) 1317-23.,2001

キーワード

慢性アルコール依存症、カンナビノイドレセプター、エタノール退薬症状、エタノール嗜好性、SR141716A

要旨

慢性的なエタノールの投与は慢性的なカンナビノイド投与後に観察されるものと類似した神経生物学的変化を引き起こす。本研究ではカンナビノイド CB1 レセプターアンタゴニストの口腔内投与または腹腔内投与の処置時間の差により効果に差が有るか否かを調べた。Wistar rat にカンナビノイドレセプターアンタゴニスト SR141716A, 1,3, 10 mg/kg/day を 30 日間エタノールと同時、又はエタノール投与後に腹腔内又は口腔内に投与した。運動性は自由選択パラダイムの開始前慢性的なアルコール処理を停止した直後から 18 時間測定した。その結果、慢性的アルコール処理と同時に SR141716A 投与した群では、有意にアルコールに対する嗜好性が増加した。対照的に慢性的にエタノールを処理した後に 10 mg/kg の SR141716A 投与した群では、エタノールに対して有意な嗜好性減少が観察された。また、アルコールナイーブラットで、SR141716A の投与はエタノールの嗜好性に有意な減少を示した。全ての実験において 10 mg/kg の SR141716A と慢性的なアルコールを組み合わせることにより退薬症状時の運動性を有意に減少させ、アルコール中毒になる過程の最後の時点での脳内のカンナビノイドレセプターの阻害はエタノールに対する嗜好性を消すことから、カンナビノイドレセプターがアルコール嗜癖からの回復に役立つ治療法となる事が示唆された。